

**製品名: CENP-A (リン酸化Ser7) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04438**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率 ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000

分子量

**抗原情報**

遺伝子名	CENPA
別名	CENPA; Histone H3-like centromeric protein A; Centromere autoantigen A; Centromere protein A; CENP-A
遺伝子 ID	1058.0
SwissProt ID	P49450
免疫原	抗血清は、ヒトセントロメアタンパク質 A の Ser7 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

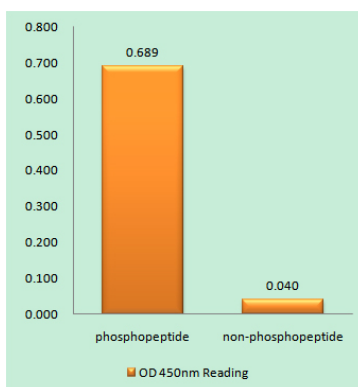
**背景**

セントロメアは、染色体の有糸分裂挙動を規定する分化した染色体領域です。この遺伝子は、セントロメアへの標的化に必要なヒストン H3 関連ヒストンフォールドドメインを含むセントロメアタンパク質をコードしています。セントロメアタンパク質 A は、ヌクレオソーム粒子の(H3-H4)<sub>2</sub> 四量体コアにおいて、従来のヒストン H3 の 1 つまたは 2 つのコピーを置換する、改変ヌクレオソームまたはヌクレオソーム様構造の構成要素であると提唱されています。このタンパク質は、ヒストン H3 ファミリーのメンバーである複製非依存性ヒストンです。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2015 年 11 月],疾患: セントロメアタンパク質に対する自己抗体を発現した自己免疫疾患患者の血清中には、CENPA に対する抗体が存在する。、ドメイン: CATD (CENPA 標的ドメイン) 領域は、CENPA を含むヌクレオソームのよりコンパクトな構造を担っており、セントロメアへの局在を媒介するために必要かつ十分な役割を果たしている。、機能: 動原体内板のセントロメアクロマチンのヌクレオソームコアにおいて、従来の H3 を排他的に置換するヒストン H3 様変異体。動原体タンパク質のリクルートとアセンブリ、有糸分裂の進行、および染色体の分離に必要である。複製と細胞分裂を通じてセントロメアのアイデンティティを伝播するエピジェネティックなマークとして機能する可能性がある。、PTM: 前期における Aurora-A/STK6 および Aurora-B/STK12 による Ser-7 のリン酸化は、Aurora-A/STK6 および Aurora-B/STK12 のセントロメア内局在に必要であり、キネトコア機能にも必須である。前期における初期のリン酸化は Aurora-A/STK6 によって媒介され、Aurora-B/STK12 によって維持される。、PTM: ユビキチン化 (おそらく) ヘルペスウイルス HSV-1 ICP0 タンパク質との相互作用により、プロテアソーム経路による分解が引き起こされる。、類似性: ヒストン H3 ファミリーに属する。、細胞内局在: セントロメアのキネトコアドメインにのみ局在する。、サブユニット: H2A、H2B、CENPA、H4 の各分子 2 個ずつを含むヌクレオソーム様ヒストン八量体を形成し、1 つの CENPA-H4 ヘテロ四量体と 2 つの H2A-H2B ヘテロ二量体に組み立てられる。CENPA を含むヌクレオソームには、マクロ H2A H2AFY や H2A.Z/H2AFZ などのヒストン H2A バリエーションも含まれる。CENPA-H4 ヘテロ四量体は、対応する H3-H4 ヘテロ四量体よりもコンパクトで、構造的に強固である。CENPA-NAC 複合体の構成要素であり、少なくとも CENPA、CENPC、CENPH、CENPM、CENPN、CENPT、MLF1IP/CENPU から構成される。CATD ドメインを介して HJURP と相互作用する。この相互作用は直接的であり、HJURP のセントロメアへの局在に必須である。ヘルペスウイルス HSV-1 の ICP0 タンパク質と直接相互作用する。

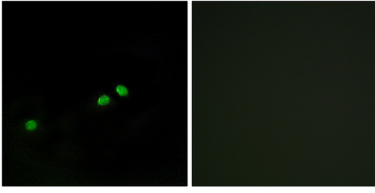
## 研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

## 画像データ



セントロメアタンパク質 A (リン酸化 Ser7) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



HeLa 細胞のセントロメアタンパク質 A (リン酸化 Ser7) 抗体を用いた免疫蛍光染色。  
右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。